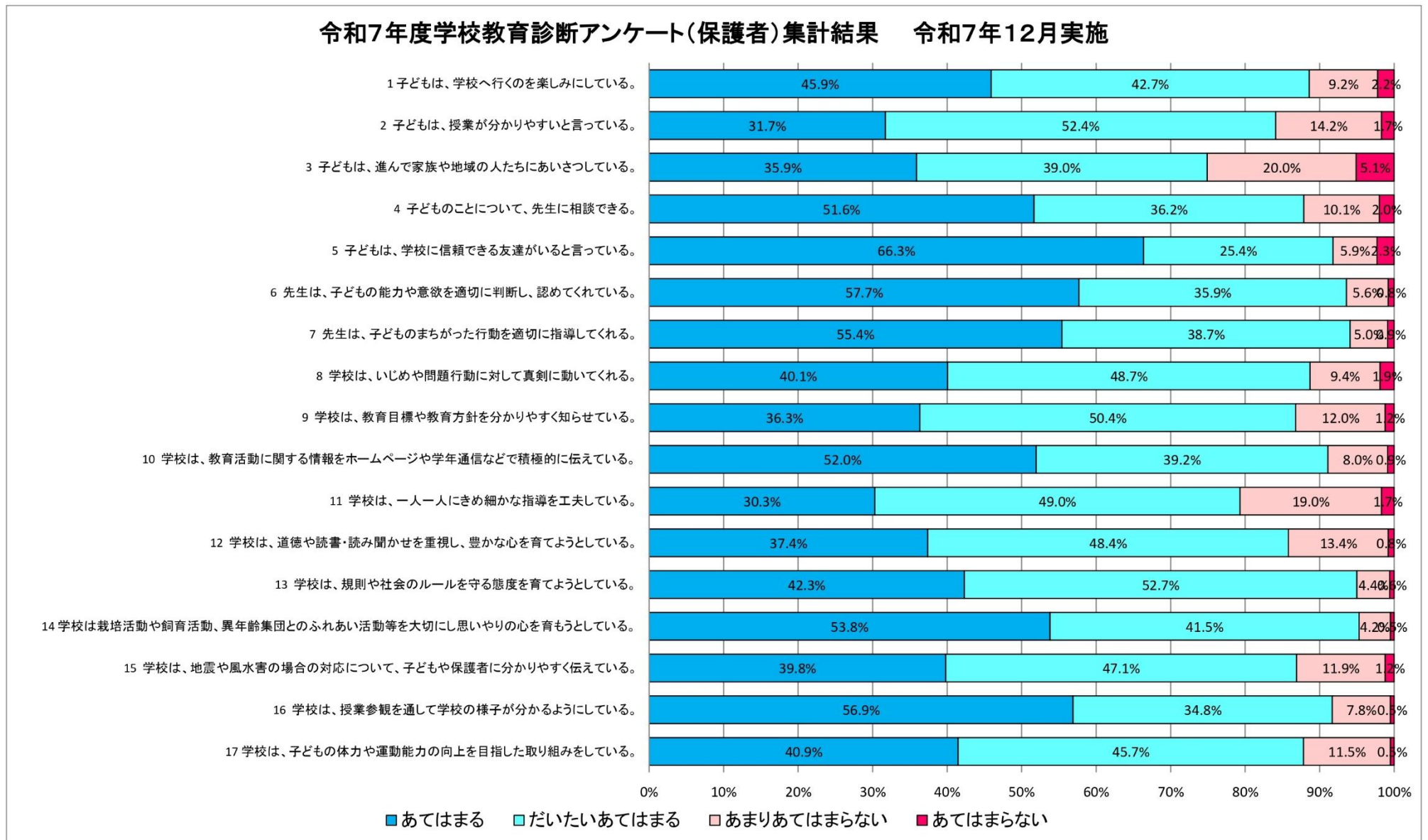


令和7年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について

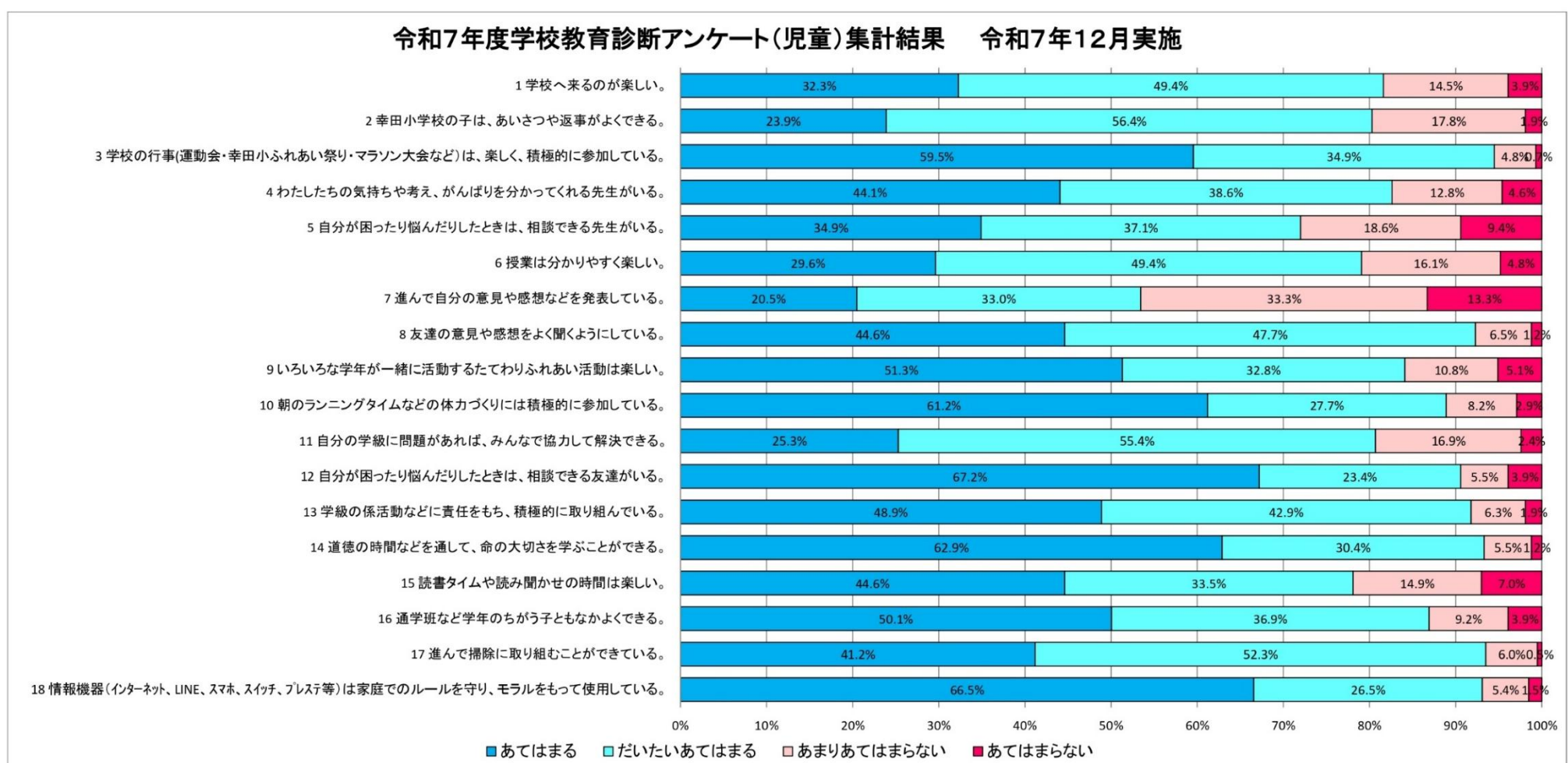
令和8年2月25日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力いただき、ありがとうございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できるところから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1 集計結果一覧グラフ（保護者）



2 集計結果一覧グラフ（4～6年児童）



3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ () 内の数値は、昨年度との比較

楽しい学校生活

「1 学校へ来るのが楽しい」と答えた児童は81.7%(-2.5%)で微減、「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」と答えた保護者は88.6%(+0.1%)でした。「安心・安全」「愛される」「信頼される」学校づくりに努力してきた結果、児童・保護者から、このような評価を得られたことを大変うれしく思います。一方で、「あまりあてはまらない」と答えた児童が20%弱います。やや二極化しつつある現状を認識し、目の行き届く教育、学校づくりをより一層意識し、ささいな児童の変化に気付き、事態を見つめ、児童の内面を見抜くことができるように、教職員の資質向上に努めていきたいと思ひます。

学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は84.1%(-1.0%)で昨年度よりも微減でした。「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は79.0%(-2.5%)と減少しました。「7 進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は53.5%(-1.0%)、「8 友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童も92.3%(-0.2%)でした。これらの項目は、一昨年度大幅に向上した項目で、今年度も概ね一昨年度のレベルを維持しています。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善は、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続ける子どもたちの育成に不可欠です。今後も、教職員が研鑽を重ねることを通し、ICT機器のより効果的な活用を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びを保証する授業を推進していくとともに、「学び合い、高め合う」授業の実現に努めていきたいと思ひます。「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は79.3%(+1.4%)と、昨年度に引き続き増加し、評価を得たことを大変うれしく思ひます。教職員一人一人が、児童一人一人の思いに寄り添い、感じ取り、個に応じた指導を心がけた成果と考えます。子ども理解は全ての教育活動の原点です。今後も、保護者の皆様との連携を深めながら、ますますの信頼を得られるように努めていきたいと思ひます。

基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は80.3%(-5.3%)、また「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は74.9%(-0.9%)と、どちらも減少しました。あいさつには、「相手への尊敬や親愛を表す」意味があります。今後も、企画委員会の活動とも連携し、児童から率先して、爽やかなあいさつができる児童を育てていきたいと思ひます。

一人一人を大切にされた教育活動・いじめ等への対応

「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は90.6%(+3.2%)、「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は87.8%(-1.4%)、「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は72.0%(-2.1%)と、概ね昨年度と同様の回答を得ることができました。「安心・安全な学校」とりわけ児童の心理的安全性の高さが現れた結果ではないかと考えます。この結果に慢心することなく、今後も、子どもたちの心に寄り添い、いち早く子どもたちに声をかけていくことで、児童が悩みや苦しみを一人で抱え込むことなく、気軽に相談できる雰囲気・体制作りに努めていきたいと思ひます。「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は93.6%(-2.0%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は82.7%(-5.4%)と、多少減少したとはいえ、保護者、児童とも高い数値を示しました。一方で、認められていない、分かってもらえていないと感じている児童も20%弱おり、「1 学校へ来るのが楽しい」の回答と同じ傾向が見られました。「教師は子どものそばにおり、その心

を感じ取る」。児童の表情、動きをよく見、児童一人一人の心に響く、そして、良いところを認め伸ばす指導を大切にしていきたいと思ひます。「8 学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が88.8%(+2.4%)と、昨年度より増加しました。生活アンケートや個別面談の実施、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会、学期に1回の専門機関の職員を交えての事例検討会の実施等、全職員で情報を共有し、早期対応を心がけてきました。あわせて、常日頃から温かい人間関係に基づく学級づくりに励んできた成果と思ひます。今後も、人権教育・道徳教育を通して、多様性を認め、温かい人間関係を育む活動もさらに充実させていきたいと思ひます。「いじめは絶対に見逃さない」という教職員の鋭敏な感覚を高め、「本当にいじめに苦しむ子どもたちはいないか」という視点を持ち、児童のわずかな変化にいち早く気付き、問題を未然に防ぐ等、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりに努めていきます。

開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は86.7%(+2.0%)、「16 学校は、授業参観を通して学校の様子分かるようにしている」と回答した保護者は91.7%(+2.5%)でした。ホームページや学校だより、学年・学級通信により子どもたちの学びと成長の様子をお伝えしてきました。今後も分かりやすい発信に努めるとともに、学校行事、授業参観等を通じ、子どもたちの学びの足跡を感じていただけるように工夫をしていきたいと思ひます。定期的な授業参観(4月・1月)以外に、自主授業参観も年6回ほど開催(家庭教育支援講座やPTA役員・委員会と同日)しています。こちらにも積極的にご参加いただけたらと思ひます。

心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は85.8%(-3.9%)、また「14 道徳の時間などを通して、命の大切さを学ぶことができる」と回答している児童の割合は93.3%(+0.4%)、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は78.1%(-2.2%)となっています。豊かな情操を育むことは、児童の人間力の向上にもつながります。今後も、心の教育の充実にも努めていきたいと思ひます。「17 進んで掃除に取り組むことができている」と回答している児童が93.5%(-0.7%)、「13 学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる」と回答している児童が91.8%(+3.0%)でした。「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる」と回答した児童は、80.7%(-2.1%)と、微減でしたが、引き続き、児童一人一人が役割をもち、責任を果たしていることが結果として出ています。今後も、子どもたちの責任感、意欲を大切に育てながら、子どもたちの自治的能力を育てていきたいと思ひます。「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動は楽しい」と答えた児童は84.1%(+0.6%)となっています。「16 通学班などの学年のちがう子どももなかよくできる」と回答した児童は87.0%(-1.8%)となりました。縦割りふれあい活動を通して異年齢集団との関わりを大事にしてきました。保護者・地域の皆様と協力して結成した『スクールガード』の活動もあり、通学班でのトラブルは減少していますが、いくつかのトラブルは発生しています。安心・安全な登下校のためにも、今後も多くの保護者・地域の方が『スクールガード』に参加していただけると幸いです。『スクールガード』は、随時募集をしております。いつでも学校(担当:教頭)へお声かけください。

体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は86.6%(+2.2%)、また、「10 朝のランニングタムなどの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も88.9%(+2.6%)と、いずれも増加しました。限られた時間と場所ですが、実施方法を工夫し、今後も児童の体力向上に努めていきたいと思ひます。